

第146回全国大学国語教育学会（鹿児島大会）プログラム

発表資料の準備や配布の方法など、一次案内からの変更がいくつかあります。

必ず「参加にあたっての留意事項（重要）」をお読みください。

1. 日時 2024年5月25日（土）～5月26日（日）（公開講座は5月18日（土）に開催）
2. 会場 鹿児島大学郡元キャンパス（〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目20番6号）
● 鹿児島大学の駐車場は使用できません。会場までは、市電（「工学部前電停」下車、徒歩約5分）、JR指宿枕崎線（「郡元駅」下車、徒歩約12分）をご利用ください。
3. 共催 国立大学法人鹿児島大学
4. 参加費

事前申込（5月7日まで受付）		直前申込（会期前再オープン）	
会員	5,000円	会員	6,000円
学生会員	3,000円	学生会員	5,000円
非会員	6,000円	非会員	6,000円
学生非会員	4,000円	学生非会員	5,000円

※ 当日、現金でのお支払いはできません。

※ 領収書については、「[発表・参加申込システム](#)」の「領収書自動発行」から発行することができます。

※ 参加申込の詳細は、[一次案内](#)をご覧ください。

※ 「公開講座（オンライン/5月18日開催）」のみの参加は無料になります。

5. 日程

第1日 5月25日（土）

8:45	受付
9:30	自由研究発表
12:20	昼食
12:55	理事会
14:00	総会
15:10	シンポジウム
17:40	
18:30	懇親会
20:30	

第2日 5月26日（日）

9:00	受付
9:30	課題研究発表
12:00	昼食
12:30	若手研究交流企画
13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
16:30	

- 公開講座は5月18日（土）14:30～17:30にオンラインで実施します。事前の申込が必要です。

鹿児島大会広報サイト：<https://sites.google.com/jkajyo.ac.jp/jtsj2024kagoshima/>

6. プログラム

【第1日 5月25日(土)】

◎ 自由研究発表 9:30~12:20 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

第1会場 司会：高木まさき(公益財団法人教科書研究センター) 中村敦雄(明治学院大学)

場所：第一講義棟101教室

- | | | |
|-----|---|--|
| 1-1 | 国語学力向上事例の検討による学習用語指導理論 —Google ドキュメントを用いた中学校での記述指導を通して— | 柳谷直明(芦別市立啓成中学校) |
| 1-2 | 「書くこと」における言語感覚指導に関する国語科教師の意識分析 | 矢部玲子(北海道文教大学)
松原裕之(福岡工業大学)
桐山聡(鳥取大学)
坂本麻裕子(早稲田大学) |
| 1-3 | 大学1年生の推敲の意識 —高校生意見文の思考に関わる文末の表現形式を対象として— | 吉田吏玖(東京学芸大学大学院・院生)
永田里美(明星大学)
安部朋世(千葉大学) |
| 1-4 | 協同推敲における学習者の行為の分析 | 井上陽童(実践女子大学) |
| 1-5 | 中学校での論理的文章を「書くこと」における「評価」指導の研究 —論理的文章の「具体的事例」を評価する観点— | 西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校、放送大学大学院・院生) |

第2会場 司会：藤森裕治(文教大学) 丹藤博文(愛知教育大学)

場所：第一講義棟103教室

- | | | |
|-----|--|-------------------------|
| 2-1 | 「第三の書く」を生かした古典の授業 —和歌を「書替え」る— | 寺西創(和歌山県立那賀高等学校) |
| 2-2 | 「古典探究」の古文編における非文学作品の扱いについて | 清田朗裕(愛媛大学) |
| 2-3 | 「古典探究」の和歌教材 —継承と独創— | 西一夫(信州大学) |
| 2-4 | 高等学校国語科における和歌学習指導 —教科書の学習の手引きをもとに— | 三谷昌士(國學院大學大学院) |
| 2-5 | 古典芸能を教材とする「伝統的な言語文化」の授業開発 —源氏物語「葵」巻と能「葵上」を比べる実践から— | 松井萌々子(明治大学附属明治高等学校・中学校) |

第3会場 司会：住田勝（大阪教育大学）佐藤多佳子（上越教育大学）

会場：第一講義棟 204 教室

- | | | |
|-----|--|-----------------------------------|
| 3-1 | 説明的文章の理解方略指導における一人読みの効果—小学校高学年への実験授業を通して— | 古賀洋一（島根県立大学）
原之園翔吾（奄美市立伊津部小学校） |
| 3-2 | 探究的学習としてのインクワイアリー・サークルのキー・レッスン—リテラチャー・サークルのミニ・レッスンとの比較を中心に— | 足立幸子（新潟大学） |
| 3-3 | 文章の形式を重視した論理的文章の読み方指導の一考察（中・高等学校） | 長谷川祥子（青山学院大学） |
| 3-4 | 国語科教師の評論・論説教材観および指導観に関する研究（I）—インタビュー調査を中心に— | 慎野拓海（京都教育大学大学院・院生） |
| 3-5 | 説話教材の読みにいかなる知識が貢献するのか—「予測テキスト（Voraussagetextes）」（Winkler 2005）に基づく学習者の予測過程の分析から— | 武久康高（高知大学） |

第4会場 司会：府川源一郎（横浜国立大学）余郷裕次（鳴門教育大学大学院）

会場：第一講義棟 305 教室

- | | | |
|-----|--|--------------------|
| 4-1 | 国語科教育学の原理的考察（七）＜第一人称話者＞・＜第三人称話者＞再考—個体史的観点と交差させながら— | 望月善次（元岩手大学） |
| 4-2 | 学習者の内的体験を核とした文学教材研究—「走れメロス」を始めとした中学校教材の考察— | 高橋菜由（秋田大学） |
| 4-3 | 国語教材を/で哲学する実践—哲学対話は何をもたらすのか？— | 松島恒熙（信州大学） |
| 4-4 | 教科の学びを社会につなぐ国語科 CR メソッドの開発（4）—「国語科 CR 授業構想マップ」を活用した授業実践— | 澤口哲弥（神奈川大学） |
| 4-5 | 話し合いにおいて学習者が選択しない方法知に関する研究 | 遠藤清将（東京学芸大学大学院・院生） |

第5会場 司会：甲斐雄一郎（文教大学）幸田国広（早稲田大学）

会場：第二講義棟講義室B

- 5-1 探究的な学びからみた柳田国男高校国語科教科書 佐野比呂己（北海道教育大学）
- 5-2 芳賀矢一が編纂した『帝国読本』にみえる国語と国文学の思想 —教材「最後の授業」・「国語と国文」・「日本文学」— 船越亮佑（岩手大学）
- 5-3 「調べる綴方」における共同制作・協働の特質 —高畑稔の指導過程を中心に— 赤荻千恵子（早稲田大学非常勤講師）
- 5-4 森鷗外「高瀬舟」の教材史研究 秋吉和紀（関西大学第一高等学校・第一中学校）
- 5-5 昭和30年代の読書指導 —国語科と学校図書館— 稲井達也（大正大学）

◎ 昼食 12:20～12:55（※ 理事・シンポジストの先生方には昼食をご用意します。）

◎ 理事会 12:55～14:00 会場：管理棟・理系研究棟2階大会議室

◎ 総会 14:00～15:10 会場：第一講義棟101教室

◎ シンポジウム 15:10～17:40 会場：第一講義棟101教室

児童生徒が熱中する国語科授業の創造—国語科授業観について考える—

コーディネーター 原田 義則（鹿児島大学）

登壇者 上原 孝夫（鹿児島県教育委員会）

野間なつき（奄美市立小宿小学校）

原之園翔吾（奄美市立伊津部小学校）

山元 隆春（広島大学）

◎ 懇親会 18:30～20:30 会場：ヴェジマルシェ '19

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30

鹿児島大学郡元キャンパス内 稲盛記念館 2F

公式サイト：<https://kuwaharakan.com/group>

【第2日 5月26日（日）】

◎ 課題研究発表 9:30～12:00 会場：第一講義棟101教室

国語科教育研究に求められる新たな「知」

コーディネーター 森 美智代（福山市立大学）

登壇者 谷川 嘉浩（京都市立芸術大学）

山田 直之（関西大学）

浮田 真弓（岡山大学）

◎ 昼食 12:00～13:40

◎ 若手研究交流企画 12:30～13:40 会場：第一講義棟101教室

◎ 自由研究発表 13:40~16:30 発表 20分 質疑応答 10分 接続時間 5分

第6会場 司会：足立幸子（新潟大学）奥泉香（東京学芸大学）

場所：第一講義棟 101 教室

- | | | |
|-----|---|------------------|
| 6-1 | シンガポールとニュージーランド実地調査からの日本の「国語」教育と 教員養成への示唆 — 「国語」教師「わたし」のオートエスノグラフィーによる「共生」と情動の人類学的探求— | 梁梨花（慶應義塾大学大学院） |
| 6-2 | 日中低学年共通教材の比較 —日本「おおきなかぶ」と中国「拔萝卜（大根を抜く）」— | 李佳蔓（広島大学大学院・院生） |
| 6-3 | 文学教育における文学理論の受容に関する考察 —第三項理論における「語り」論を中心に— | 田淵太貴（広島大学大学院・院生） |
| 6-4 | 魯迅「故郷」の訳文と挿絵 —「私」と閩土の再会場面— | 井上次夫（高知県立大学） |
| 6-5 | 思春期における詩の創作と読み合いの意義と可能性 —施設分離型小中一貫教育の取り組みから— | 加藤恵美子（桃山学院教育大学） |

第7会場 司会：寺井正憲（千葉大学）渡部洋一郎（上越教育大学）

場所：第一講義棟 103 教室

- | | | |
|-----|---------------------------------------|------------------------------------|
| 7-1 | 語彙学習方略としての形態素の意識化とその実践的課題 | 塚田泰彦（関西外国語大学） |
| 7-2 | 共同推敲における学習者の認知能力に関する研究—発達の最近接領域に着目して— | 堀口史哲（立教女学院小学校、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科） |
| 7-3 | 読書を通じた語彙指導方法の実践的研究—語彙知識の質的充実への焦点化— | 迫将倫（池田学園池田中学校） |
| 7-4 | 小学校国語科における説明的文章教材の特質—比喩の出現傾向・頻度に着目して— | 木村英俊（早稲田大学大学院・院生） |
| 7-5 | 話し合い場面における読みの形成過程—小学校3年生の物語の授業の場合— | 酒井千春（広島大学大学院・院生） |

第8会場 司会：羽田潤（兵庫教育大学）守田庸一（三重大学）

場所：第一講義棟 204 教室

- | | | |
|-----|---|-------------------------------|
| 8-1 | デジタル化がもたらす教室の人間関係についての考察 —AI を組み込んだ協働学習アプリを用いた試行実践（詩の授業）をもとに— | 山田深雪（玉川大学） |
| 8-2 | 教員養成課程における生成 AI を利用した作文授業への反応 | 森篤嗣（武庫川女子大学） |
| 8-3 | 生成 AI の作った俳句と自分の俳句を比較する小学校 6 年生国語の授業実践 | 戸田昂佑（横浜市立新鶴見小学校） |
| 8-4 | 小学校国語科 タブレット端末の活用による「聞く力」育成プログラム | 大江実代子（兵庫大学） |
| 8-5 | ことばと向き合う高校国語学習（I）～「あなたとことばの関係を考えよう」実践を中心に～ | 田島美咲（京都教育大学大学院・院生、京都府立清明高等学校） |

第9会場 司会：田中宏幸（安田女子大学客員教授）河野智文（福岡教育大学）

場所：第一講義棟 305 教室

- | | | |
|-----|--|--|
| 9-1 | 主体化する国語科授業における学習者の変容 —1年間の国語学習サイクルによる学びの効果検証を通して— | 香月正登（梅光学院大学）
白坂洋一（筑波大学附属小学校）
小泉芳男（広島市立袋町小学校）
古沢由紀（大阪市立柏里小学校）
木原陽子（長門市立仙崎小学校） |
| 9-2 | 国語科教育法における模擬授業による、言語力の育成を養うアクティブ・ラーニング —見本となる教材を参考に、自らの考えを表現する履修者— | 喜岡淳治（成蹊大学） |
| 9-3 | 物語教材〈問い〉づくりの学習デザイン —個の〈問い〉を追い続ける〈問い〉ノートの実践を通して— | 渡辺優菊（府中市立白糸台小学校） |
| 9-4 | 議論空間において児童が立てる問い | 中尾聡志（熊本市教育委員会教育センター、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科） |
| 9-5 | 認知発達をふまえた「ごんぎつね」指導の課題と改善の方向性 —学習者の「つまづき」に注目して— | 飯塚ひろみ（早稲田大学大学院生） |

第10会場 司会：山元隆春（広島大学）佐野比呂己（北海道教育大学）

場所：第二講義棟講義室B

- 10-1 「傷ついた語り手」から構想する文学教材 「鏡」の実践 雷民激（広島大学大学院・院生）
- 10-2 高等学校国語科における大岡昇平小説教材の学習指導研究 高橋南帆（青山学院大学大学院・院生）
- 10-3 絵本『わくせいキャベジ動物図鑑』の教材化研究と可能性 —子どもの想像力を刺激し、創造力を高める— 船津啓治（霧島市立牧之原小学校）
- 10-4 絵本『きつねのおきゃくさま』の教材化 —国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み（4）— 井口あずさ（甲南女子大学）

◎ ラウンドテーブル 13:40～16:30 （終了時間は最長時間です）

R-1会場 会場：第二講義棟講義室C

個体史研究は、海外の研究者からどう評価されるのか —セルフスタディとの対話—

コーディネーター 幸坂健太郎（北海道教育大学）

登壇者 宮本浩治（岡山大学）

武田信子（東京学芸大学）

Christi Edge(Northern Michigan University)

竜田徹（佐賀大学）

渡辺貴裕（東京学芸大学）

R-2会場 会場：管理棟・理系研究棟2階大会議室

探究的な学びを支える言語活動・言語能力 —国語科のウチとソトから—

コーディネーター 幸田国広（早稲田大学）

登壇者 上門大介（鹿児島実業高等学校）

藤波利奈（明治大学付属明治高等学校・中学校）

稲井達也（大正大学）

R-3会場 会場：第一講義棟203教室

国語科教育研究に求められる新たな「知」

コーディネーター 浮田真弓（岡山大学）

登壇者 森美智代（福山市立大学）

谷川嘉浩（京都市立芸術大学）

山田直之（関西大学）

佐藤宗大（日本女子大学）

◎ 公開講座について（5月18日（土）14:30～17:30、オンライン）

行為としての文学をどのように学ぶか②

－中学校・高等学校国語科における物語・小説の役割から考える－

司会・進行 鈴木 愛理（弘前大学）

話題提供者 千野 帽子（文筆家）

丹藤 博文（愛知教育大学）

中野 登志美（宮崎大学）

※ 学会参加とは別で[参加申込](#)が必要です。

【参加にあたっての留意点（重要）】

[参加者の方]

- 当日資料は、後日メールでお知らせする「大会資料サイト」に掲載します。各自ダウンロードして参照してください。そのため、大会への参加には、PCもしくはタブレット端末を持参されることをおすすめします。
- 学内ネットワークをご利用いただくことはできませんので、PC等で資料をご覧になる方は、事前に資料をダウンロードしていただくか、モバイルWi-Fiなどをご持参ください。
- 各机にコンセントが設置されている教室はほとんどありませんので、PC等は事前に充電をしてからご参加ください。

[発表者の方]

- 紙の当日資料は、**100部**を作成し、発表当日、発表会場（教室）までお持ちください。
- 当日資料のアップは任意とします。近年、PCやタブレット端末での資料閲覧を希望される方も増えておりますので、できれば事前に資料をアップしていただけると幸いです。
- 当日資料は、できれば発表前日までにアップしてください（事前にダウンロードや印刷をされるかたもいらっしゃいます）。
- 当日資料は、下記のURLからPDFでご投稿ください。その際、ファイルの頭に「**I-I ○○発表資料**」など、プログラムにある発表順を記載してください。

資料提出先：<https://sites.google.com/jkajyo.ac.jp/jtsj2024kagoshima/request>

- 投稿した資料については、直接修正することができません。ファイルの末尾に（修正版）などをつけて再投稿してください。
- 資料を掲載するサイトにはパスワードを設定しますが、さほど強力なパスワードではありません。学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにはご注意ください。
- 大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。

[要旨集について]

事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方については、大会当日までにご登録いただいた住所に直接送付される予定になっております。また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて大会申込者全員にPDF版をダウンロードしていただけるようにする予定です。ダウンロードの方法につきましては改めてメールにてご連絡いたします。

7. お問い合わせ先

● 参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail : jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX : 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

● 第146回全国大学国語教育学会鹿児島大会（対面）に関すること

鹿児島大会事務局

E-mail : jkami@edu.kagoshima-u.ac.jp

TEL & FAX : 099-285-7842

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-20-6 鹿児島大学教育学部 上谷順三郎宛

※お問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

● 鹿児島大会実行委員会

大会実行委員長 上谷順三郎・鹿児島大学

事務局長 原田 義則・鹿児島大学

千々岩弘一・鹿児島国際大学

瀬筒 寛之・鹿児島大学

幸 聖二郎・鹿児島純心大学

藤川 和也・鹿児島女子短期大学

8. 会場案内図

交通手段について

鹿児島中央駅より大学（郡元キャンパス）までは、おおよそタクシーで10～15分、市電・バスで20分～30分、徒歩で30～40分かかります。

[市電] 1系統 「騎射場」電停下車 ※ 徒歩約10分

2系統 「唐湊（とそ）」、「工学部前」電停下車 ※ 徒歩約5分

[バス] 「鹿大正門前」または「法文学部前」下車

市営 10番線（高麗橋線）、11番線（鴨池・冷水線）、20番線（緑ヶ丘・鴨池港線）

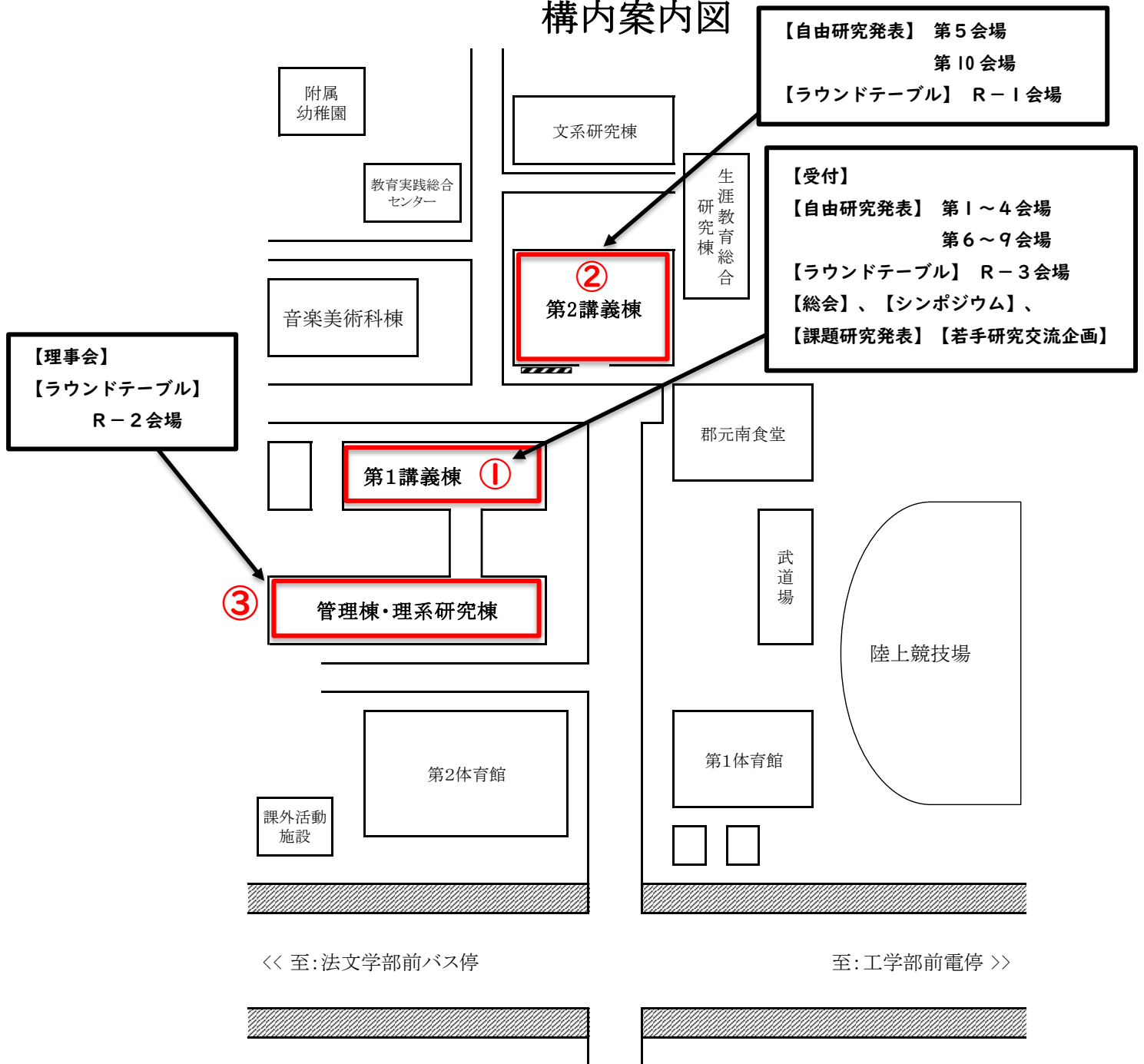
鹿児島交通 18番線（大学病院線）、19番線（紫原・桜ヶ丘五丁目行）

南国交通 39番線（武岡・鴨池港線）



鹿児島大学教育学部

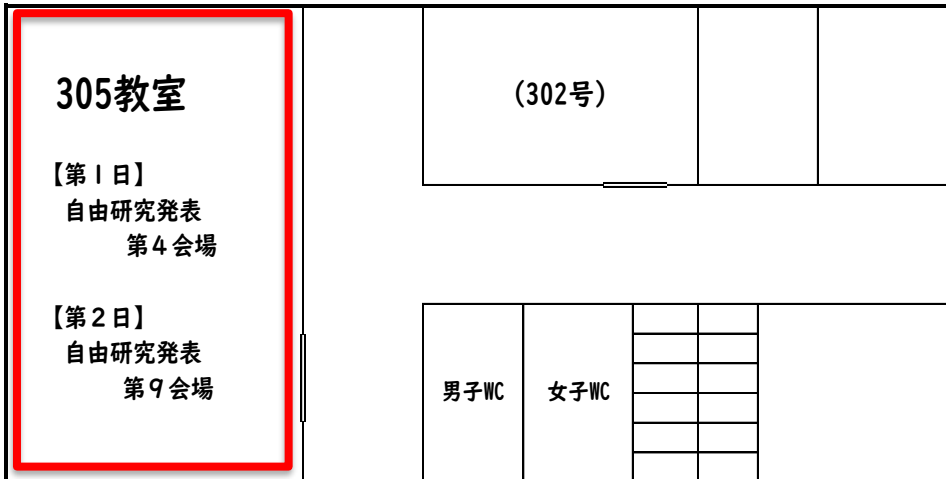
構内案内図



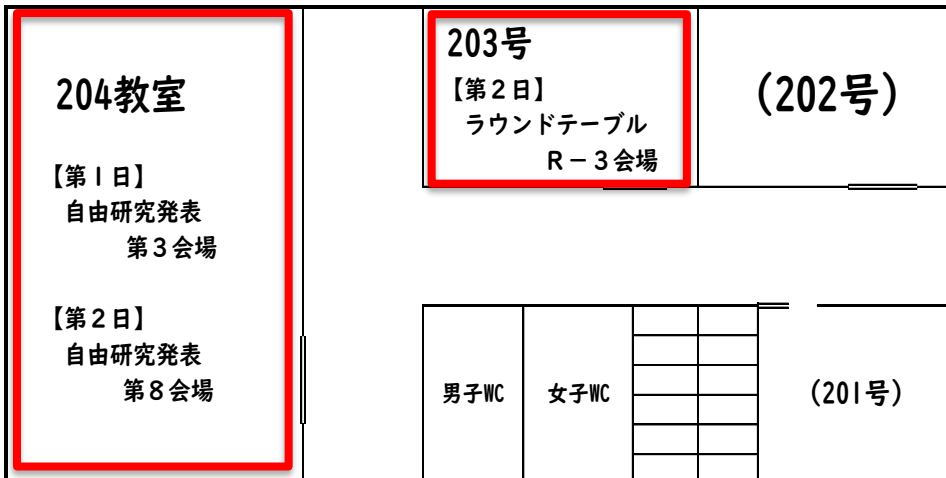
- ① 第1講義棟 … 受付、総会、シンポジウム、課題研究発表
自由研究発表 第1～4会場、第6～9会場
ラウンドテーブル R-3会場、若手研究交流企画
- ② 第2講義棟 … 自由研究発表 第5会場、第6会場
ラウンドテーブル R-1会場
- ③ 管理棟・理系研究棟 … 理事会、ラウンドテーブルR-2会場

① 第1講義棟 案内図

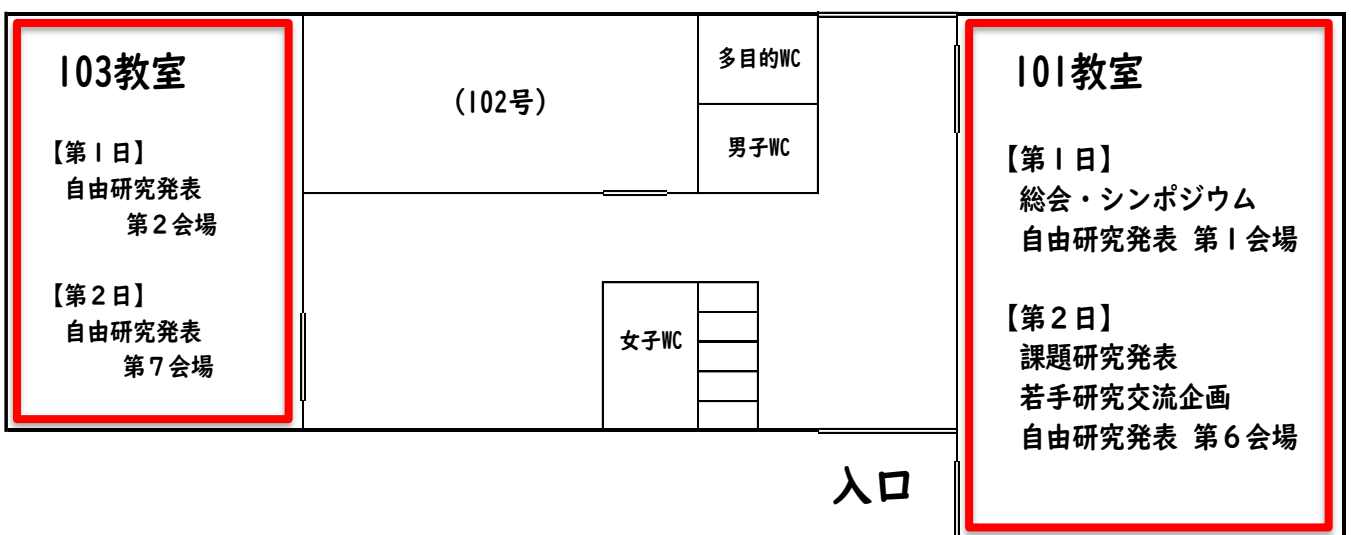
3階



2階

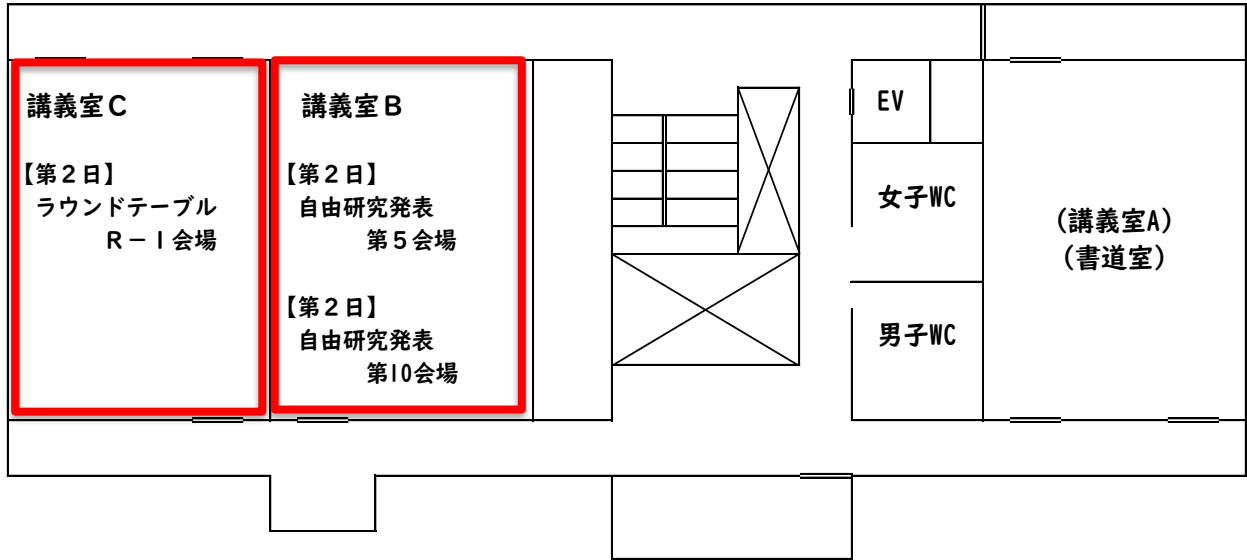


1階

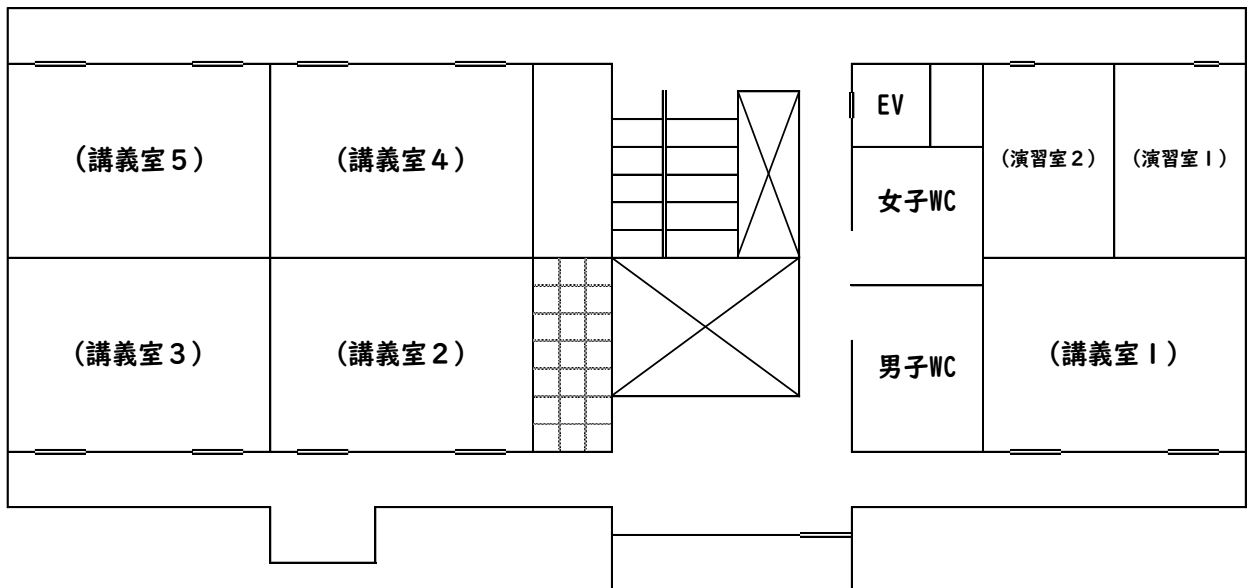


② 第2講義棟

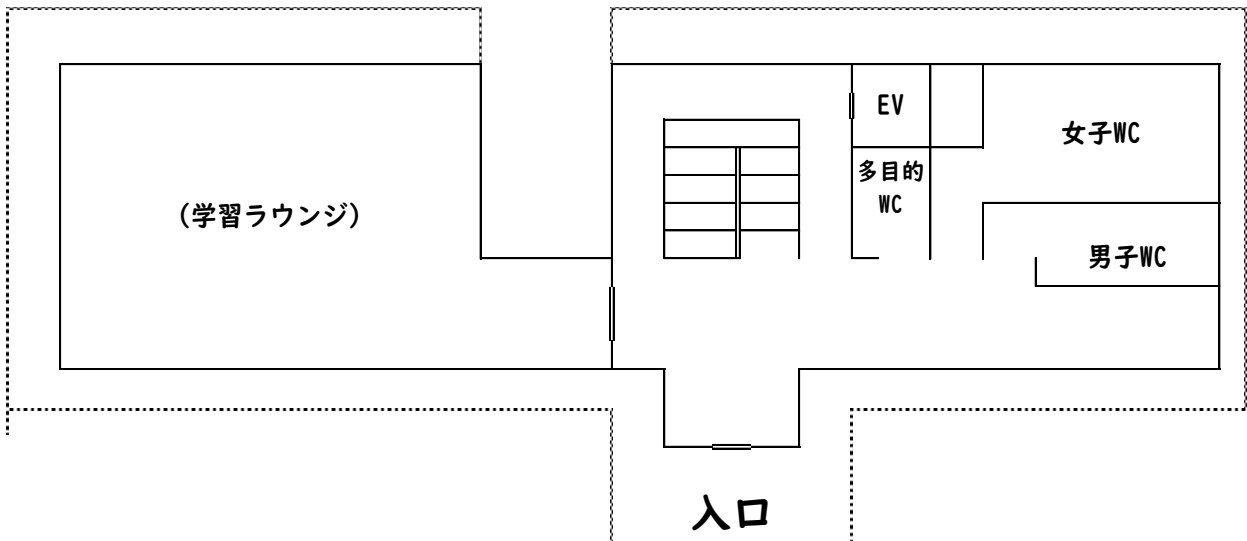
3階



2階



1階

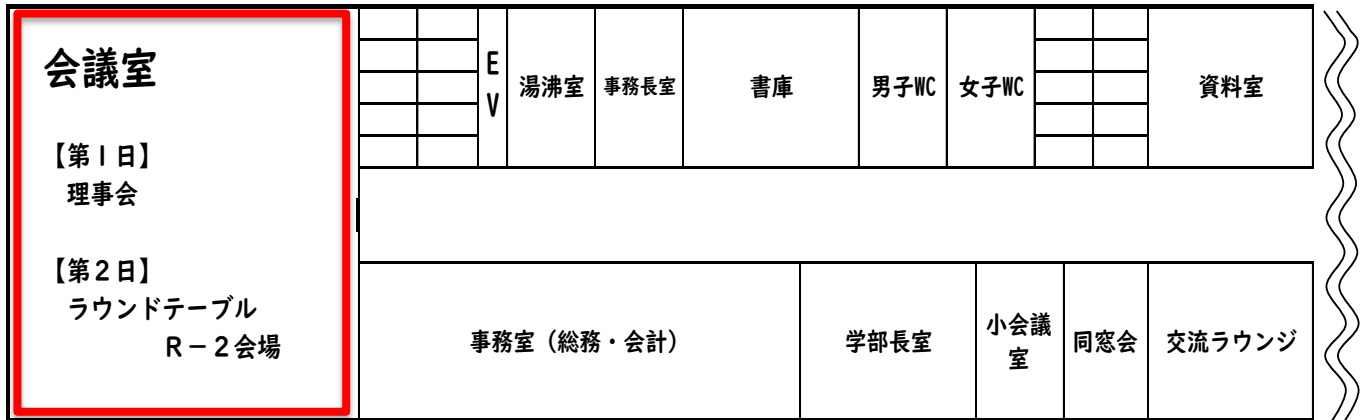


③ 管理棟・理系研究棟

3階



2階



1階



入口